

## 歯周病菌、30分で検出

### 阪大、装置を開発

大阪大学工学部の民谷栄一教授と歯学部のと田誠大助教授は、歯槽のう漏や歯肉炎などの歯周病

を引き起こす細菌を30分以内に検出できる装置を開発した。歯と歯ぐきの隙間にある唾液などを採

取し、原因菌のDNA(デオキシリボ核酸)を調べ種類を特定する。早期治療につながる成果。大学発ベンチャーのアイキャット(大阪市)と協力し4~5年後の実用化を目指す。

歯周病は悪化すると歯が抜け落ちる。心筋梗塞や糖尿病との関連も指摘されている。国民の8割が原因菌に感染しているという。

阪大は歯周病を引き起こす細菌のうち、主な3種類を調べる装置を開発した。電極にDNAと結合する物質を付けた。目的の細菌のDNAがあれば電流が変化し、検出できる。

1分(約)は100万分の1(約)あたり100~10万個と、微量の原因菌でも検出できる。検査時間が半減し、受診時に患者に結果を伝えられる。

「科学技術」は火曜日に掲載します。